

白馬の王子さま

登場人物

川口ユカリ（17）

宮尾卓也（17）

森ミカ（17）

加藤サチ（17）

山田光雄（18）

森田源一（75）

男の子（5）

男の子の母親

男の子の父親

オフィーストフード店（夕方）

制服姿の女子 3 人がポテトとジュースでおしゃべり中。

テーブルの上には遊園地のチラシがあり『ダブルデートにぴったり！高校生、4人以上で入場料半額！』と書かれてある。

川口ユカリ（ハ）はスマホとにらめっこ。ラインの画面はチラシの写真と「週末どうかかな？」の文字。既読はついていない。

森ミカ（ハ）がそのスマホを覗き見しようとして。

ユカリ「ちよっと！見ないでよ！」

ミカ「ユカリン、ほっとかれすぎ〜」

ユカリ「うるさい」

ミカ「うえー凶星だ」

加藤サチコ（ハ）、チラシ見ながら

サチコ「…どうする？やっぱり、こういうの

苦手なんじゃない？ユカリの彼氏は」

ミカ「えー、私のミックンはのりのりだよ？」

サチコ「あんたの彼氏、バカっぽそうだも
んね」

ミカ「ちょ。マユちゃんひどーい」

ユカリ「：サチの彼でいいじゃない」

サチコ「週末バイト。いいの私は。来月一緒に
温泉旅行いくから」

ミカ「おー。さすが大学生の彼。大人！」

ユカリ「それってさあ」

サチコ「ユカリも大人になりな」

ユカリ「うるさい」

ユカリのスマホが鳴る。

宮尾卓也（ハム）からの返信。「親いな

いし、家こない？」の文字。

ミカ「ねー。返事は？それでどうなのー？」

ユカリ「もう絶対、一緒にいかない！」

ユカリ、ラインの画面を閉じる。

ユカリの待ち受け画面は、遊園地のメ
リーゴーランドの前で卓也と一緒にの

笑顔の写真。

○農家の納屋（夕方）

コンテナに入っている泥だらけの野菜。運動着姿の卓也、野菜を選別しながら段ボールに入れている。

その横で一緒に箱詰めしているのは森田源一（75）。手慣れた様子で野菜を選別している。

納屋に夕日が差し込む。納屋に無造作に置かれている卓也の学生カバンにラインの着信音が流れる。

○農家の母屋（夜）

母屋の玄関で森田を待っている卓也。奥から森田が袋に入った空のタッパ―と茶封筒をもってくる。

森田「すまん。助かった。お母さんにおいしかったと伝えてくれ」

卓也「あんまり、無理すんなよ」

森田「言われんと、わかっとなるわ。ほれ少ないけどとっとけ」

森田、茶封筒を卓也に渡そうとする。

卓也「老後の資金なんかいらぬ。それより、腰、大事にしなよ」

森田「わかつとる。わかつとる」

○農道（夜）

自転車で夜道を走る、卓也。

月が畑と卓也を照らしている。

○卓也の部屋（夜）

ベッドの上に寝転んで、スマホの画面を眺める卓也。

卓也の母の声「帰ってきたら、すぐにお風

呂―（返事がないので）聞いてる―？」

卓也「聞いてる―！」

卓也、起きて部屋から出る。

卓也の机の上には小さなアクセサリ―が入っていいそうな箱がある。

カレンダーには来月の〇〇日に大き

くまるがつけられている。

○学校の教室

お弁当箱をひろげている教室風景。
ユカリとミカ、お弁当を食べ終わっ
たところ。

ミカ、廊下をみると卓也がいるのに
気が付く。

ミカ「ユカリン、あれ」

ユカリ、卓也と目が合うが無視。

卓也も廊下に突っ立ったまま。

ミカ「あー。今、思い出した」

ユカリ「え？」

ミカ「担任の岡部っちに呼ばれていたー。

あ、明日の集合は入口にー〇時ね。彼び

に言っというて」

ユカリ「え？　ちよつと！」

○学校の廊下

教室から少し離れているせいか、廊
下を歩いている人はほとんどいな
い。

卓也「：金ねーんだよ」

ユカリ「だから半額だって」

卓也「ねーもん」

ユカリ「また、ゲームにつかっただん

よ！」

卓也「うっせ」

ユカリ「最近、いつも会えてなかった」

卓也「前、行ったからいいだろ。別に明日

でなくても」

ユカリ「たまには私に合わせてくれたって

いいじゃん」

卓也「だから来月とかでもいいだろ、別

に」

ユカリ「私は、みんなと行きたいの！いい

よ。行きたくないなら、行かなくて」

卓也「行きたくないって言うて：」

ユカリ「言うてる！」

卓也「なんで、そんなイライラしてんだ

よ」

ユカリ「卓、私のことバカにしてる」

卓也「はあ？」

ユカリ「子供扱いって、思ってるでしょ」

卓也「急に何いいだすんだよ！」

ユカリ「前だって、一緒に乗ってくれなかった」

卓也「なんで、今更そういうこと……」

ユカリ「最近、会ってもすること決まってるし」

卓也「……ホント、めんどくせえな、女っ

て」

ユカリ「バカ！」

ユカリ、そのまま教室にいつてしま
う。

○学校の廊下（夕方）

放課後、帰宅していく生徒たち。

ミカと卓也が廊下で話している姿が
みえる。

○学校の屋上（夕方）

ユカリ、ミカ、サチコのω人が夕日に照らされている

サチコ「いいの？」

ユカリ「いいの！」

サチコ「私はω人一緒に楽しいけどさ」

ミカ「言つといたから彼ぴには。サチたち

と一緒に行くって」

ユカリ「ありがと」

ミカ「明日も、晴れるかなー」

サチコ「晴れるらしいよ」

○遊園地

晴天。遊園地の入り口。時計は10

時を指している。

集まっているのは、ユカリ、サチ

コ、ミカ、ミカの彼氏の山田光雄

(18)。

光雄とミカはお揃いのかわいいパス
テル色の服をきている。

光雄「初めまして、でっす。ミカリンのパ
ートナー光雄です！」

ミカ「そのパートナーのミカリンでっ
す！」

サチコ「知ってる、知ってる」

ユカリ「（光雄の服をみて）この色かわい
い！（ブレスレットをみて）あ、これも
お揃い？」

光雄「ミカリンの見立てですう」

ユカリ「めっちゃ、かわいい！」

サチコ「ほら、わちゃちゃしてないの。は
いるよ、みんな」

ミカは周りをきよろきよろしてい
て、何か探している様子。

サチコ「あれ？どうした？」

ミカ「なんでもなーい」

○遊園地 ジェットコースター

回転するジェットコースター。歓声
が聞こえる。

♪人が乗っている姿がみえる。

○遊園地 ベンチ

光雄、気持ち悪そうにベンチに座っている。

ミカ「大丈夫？」

光雄「あんまり大丈夫ぽく……ない」

ミカ「わかった。というわけで、♪人は先、行ってて」

ユカリとサチコ「はい」

○遊園地 メリーゴーランド

楽しそうにメリーゴーランドの順番待ちしている、小学生くらいの女の子♪人。

サチコ「のる？」

ユカリ「んー。どうしよっかな」

サチコ「久しぶりだしさ、のらない？」

高校生カップルとみられる♪人組が楽しそうにのっている姿がみえる。

ユカリ「やっぱいいよ。あっちのほうが面白そう」

サチコ「そう？」

○遊園地の入口

自転車で遊園地まで来た、卓也。

自転車から降り、押しながら遊園地

の中を気にしている。

遊園地の中からは、ジェットコース

ターの音と楽しそうな笑い声が聞こ

えてきている。

三十代くらいの夫婦とその子供の男

の子（ウ）が遊園地に入ろうとやっ

てくる。

男の子、卓也に気が付き、不思議そ

うな顔して話しかける。

男の子「おにーちゃん、入らないの？」

卓也「え？」

男の子の母親「こら、お兄さんにもいろい

ろあるの！」

男の子「いろいろ？　ここが楽しい場所な

のを？」

男の子の母親「そうじゃなくて・・・」

男の子「知らないの？　きれいなお馬さん

が回っているんだよ。これからそれに乗

るの！」

卓也「知ってる、それ」

男の子「じゃあ、一緒に行こ！お兄ちゃん

も一緒にのろう！」

卓也「ごめん。一緒に乗るのはちよつと：

お母さんと乗って：：そうだよ。俺なん

だよ、それは！」

卓也、急に自転車にのり、走り出

す。

男の子「お兄ちゃん？」

男の子の母親「：これって、青春だよ

ね？」

男の子の父親「何、言ってるんだよ」

○住宅街の道

自転車で爆走する卓也。

○卓也の家

卓也、息を切らしながら、自分の部屋に入り、小さなリボンのついた箱をポケットに突っ込み、すぐさま部屋をでる。

○農道

畑を自転車で爆走している卓也。

○森田の母屋

自転車からおりて、汗びっしよりの卓也。ちようど庭にでていた森田とでくわす。

森田「なんだあ？今日は何の日だ？」

卓也、息を整えるので精いっぱい。

森田「ちよつと待ってろ。今、水持ってきてやるから」

卓也「源さん。老後の資金、ちよつとだけかして！」

○遊園地の入り口

遊園地の時計は、11時を指している。

午前中に出会った男の子の家族が、ち

ようど出てきて卓也に気が付く。

男の子の母親「青春君？！きた！」

急いで、遊園地に入っていく卓也。

○遊園地　メリーゴーランド

卓也、回っているメリーゴーランド

をみながら、スマホをだして電話を

かける。

○遊園地　お土産コーナー

ユカリとマユミ、遊園地オリジナル

のかわいいストラップを眺めている。

る。

〜つあって、両方買おうか悩んでい
る様子のユカリ。

ユカリのスマホに着信音。みると卓
也からである。

ユカリ「…なに？」

卓也「メリーゴーランドの前で待ってる」

ユカリ「え？え？！どこにいるの？」

卓也「メリーゴーランド。何回もいわせん
な、バカ」

携帯、切られる。

ユカリ「バカって。ちよっと、行ってく
る」

サチコ「え？どこに？」

ユカリ「メリーゴーランド。ここで待って
て」

ミカと光雄、走って出ていくユカリ
を見かける。

ミカ「何？」

サチコ「メリーゴーランドに行くって」

ミカ「みっくん！」

光雄「はい?!」

ミカ「緊急指令!ユカリちゃんを追え!」

光雄「はい?!」

○遊園地　メリーゴーランド

ユカリと卓也、無言の対面。

そして、ユカリの後ろに走ってついてきた光雄。

卓也「(光雄をみて) ……そいつかよ」

ユカリ「は?」

光雄「え?」

卓也「別にいいけど・・・これ」

ポケットから出してきた小さなリボンのついた箱。ぐしゃぐしゃである。

ユカリ「何?」

卓也「ちゃんと開けるよ」

箱の中は、メリーゴーランドの形のがわいらしいネックレス。

卓也「付き合って二年だから、来月」

ユカリ「バカ：」

卓也「バカはお前だろ」

ユカリ「（ネックレスを差し出し）：これ、つけて」

卓也「なんで俺が」

ユカリ「他に誰がいる？」

卓也、ネックレスをユカリにつける。

ユカリ「ちよつと手、ベとベとしてる」

卓也「悪かったな」

ユカリ「ぜんぜん悪くない。すつごく、うれしい」

× × ×

サチコ、ミカ、光雄、回っているメリ

ーゴーランドを眺めている。

サチコ「知っていたの？」

ミカ「見たんだよねー。みつくんとこれ買った時、一人で来てたから」

ミカ、光雄とお揃いのブレスレットを

サチコにみせる。

サチコ「なるほどね。で、昨日、何言った？」

ミカ「ミカの男友達で、メリーゴーランドす
ごい好きな子いるから、その子誘うねーっ
て」

サチコ「それ誰？」

ミカ「さあ？」

ミカ、メリーゴーランドに乗っている
卓也をみながら

ミカ「あの人かな？」

仲良く、ならんでメリーゴーランドに
のる〰人の姿。

気が付けば、夕日が沈んでいく。了